



2023年2月14日

各 位

会 社 名 ソレイジア・ファーマ株式会社  
代表者名 代表取締役社長 荒井好裕  
(コード番号：4597 東証グロース)  
問合せ先 取締役 CFO 管理本部長 宮下敏雄  
電 話 03-5843-8046

## 2022年度減損損失計上（連結財務諸表）、特別損失計上（個別財務諸表）のお知らせ

当社は、本日開催の当社取締役会において、下記のとおり減損損失を2022年度決算において計上することを決議いたしました。また、2022年度個別財務諸表において下記のとおり事業構造改善費用を特別損失として計上いたしますので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 減損損失計上（連結財務諸表）

当社は、製品エピシル®（SP-03）の販売を2018年より行っておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、営業員（MR）の拡宣活動が限定される事態となり、また2021年から2022年にかけては、中国で実施された断続的な外出制限措置や大規模都市封鎖によりがん患者の病院訪問機会が抑制されたことにより、エピシル®の販売数量は当初想定に比して大きく下回っている状況にあります。この状況を踏まえたエピシル®への価値評価のもと、2022年度12月期決算にて当該製品無形資産残高231百万円に対する減損損失を計上いたします。2022年度12月期決算においては、当該減損処理のほか、2022年11月既報のとおりSP-05無形資産の200百万円の減損処理を行います。なお、これら減損損失は、過年度にエピシル®とSP-05の開発に対して行った投資支出を無形資産化したものを対象とし、この損失計上による資金流出は生じません。

#### 2. 特別損失計上（個別財務諸表）

既報のとおり、当社は2022年度第3四半期に中国自社販売体制を解消し、連結従業員数77名（2022年3月末）から27名体制（2022年12月末）への事業構造改善を行いました。これに対する一時的費用が311百万円発生いたしました。当該費用は、当社連結会計（IFRS基準）上は販売費および一般管理費として扱いますが、個別財務諸表（日本基準）においては特別損失（事業構造改善費用）として表示いたします。

#### 3. 2022年度連結業績への影響

上記減損損失及び事業構造改善費用は、本日別途公表いたしました「2022年12月期決算短信」掲載の2022年12月期業績に織り込まれております。

以上

#### 注意事項：

このプレスリリースに記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。また、このプレスリリースに含まれている医薬品又は医療機器（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。